

第6回コア会議 議事要旨

1. 全体

- まちづくりマスタープランは庁内で開発協議をする際の考え方のベースとしてや、まちづくり条例で建築許可を誘導する際にも役立つ。再開発や区画整理ではなく、空間をどのようにマネジメントするか、という計画に大きく変わってきている。そのため、従来の都市計画のセクションだけでなく、地域包括ケアなどの福祉の視点も必要であり、様々な関係課と一緒に議論して行く必要がある。まちづくりマスタープランの各検討体の議論の中でもそういった意見が挙がっているため、各課の施策と連携した計画を作っていけると良い。(小泉委員)
- 地域別構想については、地域の方の意見を集める機会がある。配慮事項等が挙げればまちづくりマスタープランへ記載できると良い。(小泉委員)
- コア会議での協議がまちづくりマスタープランへどのように反映されるかが気になるため、第7回コア会議では、今までに挙げた対応事項の反映方法などを立地適正化計画と併せて説明いただきたい。地域懇談会のまちあるきの成果も地域別の方針に落とせると良い。また、各検討体での検討状況の、市民へのフィードバックも必要である。地域別意見交換会に参加する方に資料を持ち帰ってもらい、後日意見を回収する等の方法も考えられる。
- ⇒住民だけで進めるまちづくりには限界があるため、行政が担うハード面の話を周知する機会を設けられると良い。(事務局)

2. 地域別構想について

■北側

(第一中学校地域)

- 旧万願寺グラウンドは、更地にして東京都都市づくり公社へ返却する予定。今後の土地利用の方針は未定であり、地域の方々からも意見を伺いながら検討する。(事務局)

(第二中学校地域)

- 多摩平2丁目、4丁目はURの団地もあり、高齢者施設も整備されているため良好な住環境であるが、一方で日野台などは住宅が密集している地域であり、少子高齢化の進む地域であるため、多摩平2丁目、4丁目の地区計画区域を始め、周辺地域にも配慮したまちづくり(周辺地域の方の利用にも配慮した機能を整備するなど)を進める必要がある。
- 豊田駅の南口は地区計画が指定されており、マンション建てる場合、一階には必ず店舗を設けるルールになっている。(事務局)
- 豊田駅の北側から南側への移動は少ないため、南側の店舗を利用する方は、南側の住人に限られる。
- 豊田駅北側(多摩平二丁目)は、6歳未満の人口増加数が少ないが、商業機能と居住機能が立地しており、基盤も新しく住みやすい地域であるため、今後は若い人が入ってくる可能性がある。
- 日野台4丁目は、現状では幅員4mの道路に電柱があり、歩行空間は実質3m程度しかないため、メインの道路を無電柱化して、道路の両側にあるU字溝についても蓋をしてフラットにする。また、公園については地域のイベント等で使いやすいようにリニューアルすることで、住んでいる方が外に出たくなるような地域を目指す。(事務局)
- ⇒歩きやすいまちづくりを推進する上で、地域ごとに具体的なルートを示せると良い。

⇒生活道路の整備以外に、建て替え促進や空き家活用なども進められると良い。東豊田3丁目の既存不適格のマンションについては、用途地域を中高層住居専用地域として高さ制限を緩和し、第一種低層住居専用地域と同じ程度の用途制限をかけることなどが考えられる。

○黒川清流公園は日野を代表する公園であるが、薄暗く、川が流れている部分もコンクリートであり、自然と調和していない。池も淀んでいる。もう少し改善すべきではないか。

⇒大規模な整備ではなく、設えを工夫するなどして改善できると良い。

⇒緑地保全地域であり、資源を活用するという考え方とは異なる。地域懇談会で、市の北側と南側に分かれてまちあるきを実施したが、北側ではあまり良いスポット（活用できる場所）を見つけられなかった。（事務局）

○豊田1丁目から市の南側（南平）へ架かる予定の橋の整備費が課題である。市民でお金を集めて整備などできると良い。橋が整備されると、一番橋から望める景観が阻害される可能性があるため、飛び石でも良いかもしれない。

⇒震災復興で大船渡市に訪れた際、飛び石で対岸に渡れる場所が整備されていた。

⇒城を建てる際に各大名が石を持ってきて塀を作っていたが、同じようなことも考えられる。

⇒石に名前を彫るのも良い。

（第四中学校地域）

○大きな工場が多く、出張で訪れる方も多いが、宿泊施設（ビジネスホテル等）が無いことから、八王子に宿泊することになる。ホテルがあると良い。

○IoTやAIの活用が見込める地域ではないか。富士電機などの企業や大学（首都大学東京）もあるため、ソフトウェアの分野でなにか考えられないか。物流にも可能性はあるのではないか。

⇒企業にとってのメリットを考える必要がある。給料だけでなく、より快適に通勤、勤務できるような環境を創出することもその一つかもしれない。例えば、GEヘルスケアジャパン(株)（以下GE）では、敷地内での喫煙が禁止されているため、近所の公園で喫煙しているが、公園を利用する住民から煙たがられているため、そういった環境を改善することも必要。（事務局）

○西平山5丁目は、古い建物も多く、規模の大きな地震が発生した際には大きな被害を受ける地域であるため、建替促進などで居住環境を整えて行く必要がある。また、防災面を向上させる必要がある（日野3・4・25号線の整備）。

○計画中の道路である日野3・3・2号線（西平山3、4丁目を横断する部分）は、八王子南バイパスへ接続する幹線道路であり、市民からはバス路線の整備を始めとする豊田駅までのアクセス性の向上が要望されている。更に、日野3・3・4号線が整備されれば、豊田駅以外の路線の整備も想定されるため、利便性が大きく向上する。日野3・3・4号線の計画は国の事業であるため、今後は進みが早いことが想定される。（事務局）

○医療関係の企業が増えてきており、コニカミノルタは医療分野の開発も行っている。GEはMRI等の医療器具、TELJINは薬、富士電機はセブンイレブンのコーヒーの機械や自動販売機等を生産している。医療関連で何か考えられるかもしれない。（事務局）

⇒富士電機、GEでは研究開発も行っている。交通が不便な地域であるため、産学官の連携をする中で、交通に特化したまちづくりができると良い。交通の利便性が向上すれば企業の方の通勤も楽になる。PlanTも活用して企画開発を推進できると良いのではないか。

⇒交通が不便な上に高齢化も進んでいる地域であるため、IoTを活用して、コーヒーメーカーに健康

チェックの機能などを搭載し、高齢者の健康管理ができるようにすることもアイデアとして考えられる。そういったアイデアを首都大学と企業が連携して企画開発できると面白い。

○小学校と中学校が立地しているが、今後 20～30 年のスパンで考えると 6 歳未満の人口が減少し、空き教室が増加することが想定されるため、空き教室の活用方法を検討する必要がある。高齢者向けの機能や、研究室を設けて企業や大学が協働で科学教室を開くことも考えられる。

○現在多くの農地が残されているが、保全などをしない限り道路の整備と一緒に減っていくことが想定されるため、事前に保全の計画（農業公園を計画しておく等）を検討する必要がある。

⇒道路の整備と併せて宅地化が進むため、農地と宅地のバランスを考えておく必要がある。

○「暮らしやすさ」と言うと、交通、買い物、医療が思い浮かぶが、日野市の暮らしやすさは、「豊かな自然環境を活かしたライフスタイル」ではないか。日野市民の共通の文化として、水と緑を活かしたまちづくりを推進できると良い。（事務局）

○自然が身近にある環境は日野の魅力の一つであり、外部（市外）から訪れるとより実感できる。保全をしなければ減っていく一方である。練馬区は 30 年前までは緑豊かな地域であったが減ってしまった。

○保全と併せて、どのように活用するか（潤うか）ということを考えながら計画することがこの先求められる。日野市は、原野は多いが、公園の数は 26 市で比較しても多いわけではない。（事務局）

○交通、農業、医療など、ライフテクノロジーをテーマに産官学を考えると面白い。

○日本に企業が残る理由は、日本の高齢化率は世界一であり、ライフテクノロジーの分野においては先進国になり得るからである。発展途上国を始め、諸外国もいずれ高齢化の時期を迎えるため、その際に日本での成果を汎用することができる。そういった視点で産学官が連携して取り組むことも考えられる。

○学生の研究で、高齢者が徒歩で利用する施設までの距離について草加市でアンケート調査を実施したところ、100～300m という結果が得られた。特に公民館が 300m 以内にある地域では、高齢者の外出頻度がとても高かった。公民館をいくつも整備することは考えづらいが、コンビニやファミリーレストランがあるだけでも外出頻度が高くなるという結果が得られている。

○市内に市民が無料で利用できる集会所が 66 施設あり、半径 400m の範囲でほぼ全ての地域がカバーできている（区画整理実施中のエリア（川辺堀之内等）を除く）。地域戦略室では、集会所を市民の外出頻度を向上させるための施設として活用するための方策を検討している。建物自体は古く、内装も昔ながらの設えであるが。（事務局）

⇒若者にリノベーションしてもらうことも考えられる。既存施設の利活用の方法を考えることは重要なテーマである。

○日野市では昭和 30 年辺りから集会所を整備する取り組みを行ってきた。同じレベルの自治体でも日野市ほど充足している自治体は少ないのではないかと考える。（事務局）

⇒目的があって利用する施設しかないことが問題であり、申し込みなどが必要ない無目的で気軽に利用できる場所が必要である。

⇒申し込みや鍵の貸し借りなどの手間がかからず、ふらっと行ってお茶を飲むなど、そういったことができる場所があると良い。

⇒お金を取ってもいいので、カフェなどを運営しても良いのではないか。その際は時間を区切って一定時間だけカフェにして、それ以外は自由に利用できるように開放する。

○旭が丘地区センター（旭が丘中央公園内）の建て替えを行ったが、その際公園清掃を高齢者施設へ

委託して、障害を持つ方がふらっと立ち寄れる場所として位置付けた。(事務局)
⇒法人と連携して施設管理を委託するなど、事例を増やしていけると良い。

(平山中学校地域)

○平山小学校は廃校しており、現在は平山台文化スポーツクラブとして活用されている。社団法人が運営しており、活動は活発である。福祉団体が行っている配食サービスや、保育園、障害を持つ児童の放課後の預かり場所等も入っている。平山1～3丁目の方がメインで利用している。(事務局)
⇒福祉関連の様々な機能が複合している施設であり、魅力的な場所になりつつあるため地域住民や周辺施設とも連携できると良い。交通面は課題。

⇒現在ミニバスの路線が整備されているが、路線を検討する際に、市内で一番時間を要した地域である。最初はミニバスなんていないという意見が多かったが、現在は高齢化も進んできているため、路線を増やして欲しいという意見が多く挙がっている。しかしバス停の位置が問題であり、自治会が主体的に動いているが、家の前にバス停ができるとなると住民は皆納得してくれない。(事務局)

○平山6丁目の南側は丘陵地ワゴンタクシーが導入されている地域である。(事務局)

○平成31年を目途にコミュニティ交通を再編する予定である。交通空白地域である2割については、現在の手法だけを用いて改善することは難しい(道路拡幅では時間がかかる、ワゴンタクシーにも限界がある)ため、他地区の事例を参考に検討して行く予定。現在はミニバスやワゴンタクシー等、運送業者に補助金を出して委託しているが、意欲のある自治会があれば、住民補填型の運営も検討していく。住民補填型の先進事例も情報収集できているため、地域へ事例を見学する機会等も提供しながら進めて行きたい。(事務局)

⇒自動運転が取り入れられるとドライバーが必要なくなるかもしれない。

⇒住宅団地は規則的な道路構成であるため、自動運転を取り入れやすいのでは。その前に、「バス停は沿道にあるもの」という既成概念を変えて、空き家を更地にしてバス停を整備し、屋根を掛けて、電動車イスが充電できる機能も搭載するなど、パーソナルモビリティを取り入れたまちづくりを推進できると良い。電動車イス使用者は多くいるため何か考えられるのでは。

⇒バス業界を始め、運送業者は人手不足であるため、昔は簡単に便数を増やすことができたが、現在はすぐには対応できない。自動運転が導入できると良い。(事務局)

⇒ゴルフ場の中を移動するカートを巡回させてはどうか。

⇒社会実験で導入している事例がある。

○川沿いに自転車やランナーが休めるランステーションを整備できると良い。

⇒平山台スポーツクラブの付近にシャワーやカフェが備えられたランステーションを整備しても面白い。走り切れば休めるなど。

⇒ランナーの挑戦心をあおるため面白いかもしれない。

○昔は農地がたくさんあったが、どんどん減っている。

○様々な課題や可能性がある地域であり、今後どのような地域にするのか方針を検討する必要がある。

■南側

(七生中学校地域)

○交通空白地域については、道路の幅が4～5mしかなく、一般的な路線バスを走らせることができない。道路を拡幅しない限りは、路線バスを整備することは現実的ではない。地形は平坦であり、駅からの距離は15分程度。(事務局)

○一番橋通りはバスが通っており、買い物に行く際はバスを使うが、時間が合わないため帰りはタクシーを使っている傾向がある。(事務局)

○高幡不動駅から豊田駅に行くバスルートは、迂回して時間がかかる。自家用車を持っていない方も大勢いるため、北野街道から豊田駅にまっすぐ行ける直通バスがあると便利である。

⇒現状では、高幡不動駅から豊田駅の南口までのルートは、朝の7時台から夜の19時台までの間で、1時間に1本走っている。それに加えて住宅地の中を抜けて市役所、市立病院を経由するルートが40分に1本ある。(事務局)

○南平山周辺の緑は都市計画公園や緑地、都市計画の位置づけのない任意の公有地等であり、丘陵地はこの辺りから始まっている。昔の集落もここにあり、鉄道や都市計画道路は山裾に沿って走らせるほかない。河川、線路、都市計画道路が平行に走っており、丘陵地が高度経済成長に宅地化された。この辺りの狭い区割り是个別の開発がされたためであり、道路の通り抜け等の計画はされていない。また、浸水危険区域と土砂災害警戒区域であるため、山と河川の両方の災害の不安がある。昭和40～50年代頃の開発であり、擁壁は一部くずれたところもある。(事務局)

○南平体育館の建替えの計画があり、拠点点を都市計画道路沿いに集めざるを得ない。また、拠点は丘陵部の住宅地にはできづらい。(事務局)

○市街化調整区域の部分は環境省の所管であり、野鳥の救護センターがあった。(事務局)

○地区には、地区計画が指定されている住宅地、指定されていない住宅地、市街化調整区域がある。(事務局)

○事業法で造成した住宅地、位置指定で開発した住宅地(鹿島)、開発許可、規制法の導入前に駆け込みで開発したところは2段積みの擁壁などがある。鹿島は良好な住宅地で、擁壁のやり替えなども比較的よい。経年劣化が進んでいる点は問題。敷地の単位が大きく、敷地を割れないような大きさのエリア拠点をつくりたいと思っても現状では住宅しか建てられない。用途地域を変更して規制を緩和するのが現実的。(事務局)

⇒敷地面積の最低限度規制を緩和しても、現状ベースだと割れない。また、用途地域を変更して緩和しても、経済的に住宅以外のものが建つかは分からない。空き家のリノベーション等を考えてはどうか。(事務局)

○危険な空き家になりそうなものはまだない。(事務局)

○この地域の地域包括支援センターの方に確認したところ、空き家の発生方法はいくつかあり、大体、旦那さんが先に亡くなり、残された奥さんが施設に入り、空き家になるパターン。子どもたちは戻ってこないとのこと。(事務局)

⇒除却すべき不適切な空き家という程ではないが、そのまま新しい方が購入してリノベーション等して住むかという、それほど質が良いものではない。地域の方は、課題認識はしていると聞いているが、その次のステップには至っていない。(事務局)

⇒行政が手を差し伸べるような方策が打てないか。どうしても除去しなければならない状況になる前に手を打ちたい。

- ⇒高齢者が住み続けられる一方で、若い人にも着目してもらえるようにする必要がある。(事務局)
- ⇒アクセスや行動範囲など、若い人のニーズ調査をすると良い。アクセスはそれ程悪くないのでは。
- ⇒40分に1本バスがある。あるいは、高幡不動駅を起点に、住宅地の中を回って戻る循環バスが20分に1本出ている。(事務局)
- 南平体育館は、地域の方と話し合いながら、コミュニティ、防災、健康・スポーツの拠点としてリニューアル設計をしていく方向と聞いている。(事務局)
- 川辺堀之内地域は将来的にバイパスが通る。今後区画整理を実施する予定。農地も減っている。(事務局)
- 交通軸と併せて、沿道に地域の生活利便施設が配置されても良い。商業施設、公共施設などが立地する可能性がある。(事務局)
- 区画整理の保留地はほとんど売れており、ファミリー層が増えているため小学校の教室の圧迫要因にもなっている。(事務局)

(三沢中学校)

- 水害の大元は程久保川であったが、現在は改修された。
- 落川交流センターの建て替えをする際には、1階をピロティにして高い建物にすると良いという話をしている。
- 生産緑地はそれほど残っていない。
- 緑地は市有地より民有地の方が多い。東京電力の研修所の辺りに一団の緑地がある。(事務局)
- 東京電力の辺りにはまだ蜚がいる。
- 開発の際に少しずつ緑地をもらっている。今後は都営新井団地の建て替えや、保育園の整備、公園の再整備を予定している。(事務局)
- 高幡不動駅の北側が古いままであるため、区画整理できると良いのではないかと。潤徳小学校の通学路はダンプトラックがよく通り、危険であるためなんとかできないか。
- ⇒住居系の用途であるが、車両の進入ルートがここしかない。元々、高幡不動駅周辺の区画整理の検討エリアには入っており、第八小学校から高幡不動駅に向かう道路の案であったが、調査段階の説明会でもめた経緯があり、断念した。(事務局)
- ⇒世代が変わっていると思うため、新しい世代で再度検討してほしい。
- ⇒区画整理だけでなく、地区計画等で地元の機運を盛り上げていくことが必要。そういった部分は市から働きかける必要がある。
- 地盤が弱いところが多い。
- 七生公会堂も老朽化してきているため、これから計画していく。駅の北側に福祉支援センター（元保健所）がある。(事務局)
- 市の南地域には福祉施設や文化施設が少ないため、七生公会堂をそういった用途で使うことも考えられる。
- 拠点については、場所ごとに誰を対象としたどのような拠点か、ということがイメージできるように記載する必要がある。(事務局)
- ⇒人口動向や生活行動を踏まえて検討する必要がある。
- ⇒川崎街道を含め、ロードサイドに分散している部分の今後を見据えた展開を記載するべき。(事務局)

- ⇒拠点を3地域ごとに考えるのか、もう少し集約して考えるのか、という部分の検討が出発点になるのでは。
- ⇒まずは拠点の階層構造を整理する必要がある。ベーシックには生活拠点はどこにでも必要であるが、もう少し範囲が広い拠点も必要。若い人が住んでいるところ、年寄りが多いところなど、人口動向によっても変わってくる。その上で拠点の配置を検討していかなければならない。市全体を踏まえた計画が必要。
- 北河原公園は、自衛隊を駐屯させる緊急のエリアとして、防災安全課が次回の地域防災計画で位置づけを検討しており、浸水ではなく地震や災害復興の際の利用を考えている。(事務局)
- ⇒住民が避難できる場所を山の方に整備してほしい。この辺りは避難する場所がない。日野高校が避難場所になっているようだが、浸水想定エリアである。
- ⇒日野高校は水害時の避難場所には指定されていない。日野バイパスを上がったところに避難する計画になっている。基本は早い段階で避難するしかない。(事務局)
- 新しい焼却施設もきちんと図面に明記した方がよい。

(第三中学校)

- 坂が多く、坂の上と下では生活利便性が違ってくるため、解決策を検討する必要がある。
- 京王電鉄が子ども向けの屋内型遊戯施設をつくった。多摩動物公園もあり、観光にシフトしてきているエリアである。(事務局)
- ⇒にぎわうのは週末のみである。
- ⇒高度経済成長のときにはりついた住宅であり、非日常的なレジャー施設が多かった。(事務局)
- 多摩テックの今後の活用方法を市としても考える必要がある。周りに大学がたくさんあるため、大学に関連した施設をつくるのが一つの方策ではないか。
- 市街化区域が狭く、都立七生療護園があり、特定の住居あるいは学校ゾーンがある。緑地は民有地が多く、都立七尾公園、動物園などがある。このあたりは地権者数人が保有している。山の維持管理や相続税等を払うために実態としては宅地化されている可能性がある。(事務局)
- 多摩動物園を何とか活用できないか。
- ワゴンタクシーを導入しており(1時間に一本)、自家用車を利用している方が多いため、利用者は特定のになっている。(事務局)
- ⇒ワゴンタクシーのルートはかなり不便である。
- 地区計画がかかっていないため、宅地が細分化されている。モノレールの動物園駅が近いので若い人が転入してきている。また、入れ替わりが多いエリアであり、中古よりは新築に入居している傾向がある。あまりストック活用されていない。(事務局)
- 旧耐震の建物が多く、斜面であり、状況は深刻。
- 民地の緑地をうまく保全したい。
- ⇒元々は私有地であるため、自分の土地にあまり他人に入られたくないという意向があるが、保全していきたい。(事務局)
- 散策路やフットパスがあるが、休憩するような場所はない。(事務局)
- 終の棲家として考えると厳しいものがある。ここに住んでいる方々がライフイズスロープという雑誌をつくって、坂道を楽しんで暮らそうというポジティブな様子も見られる。(事務局)
- まだ例は少ないが、実践女子大の学生が5人くらいでシェアハウスに住んでいる。ただ、夜は街灯

がないため危険。

○高幡台団地は駅から離れているわけではないため、公共交通を整備すれば持続できるかもしれない。

(事務局)

○帝京大学からのバス路線があり、本数も多く、住民の方はシルバーパスを利用しているためほとんどお金を払っていない。大学の立地は重要である。(事務局)

○中央公民館の高幡大分室へのアクセスが不便である。今の状態ではほとんど利用できない。

○山の斜面にエスカレーターを整備し、程久保駅から上ることも考えられると良い。

○高幡不動から聖蹟桜ヶ丘の方に抜けるバスルートがあり、このエリアの方々は聖蹟桜ヶ丘を利用する方が多い。(事務局)

○丘陵地全体としてアクセス圏が充足できていないため、団地も含めて工夫が必要。

○大学依存だけでは厳しいため、高幡台団地も百草団地も若い世代に入っていただく必要がある。(事務局)

○高幡不動駅周辺は、駅と川崎街道の間が商業地域である。七生公会堂、農協があるエリアは公有地が多いため、商業地としての可能性はある。また、高幡台団地の73号棟跡地は、URが地域拠点の誘致を検討しており、方針はできている。拠点性のある地域として商業地域に近い色へ変えて行くことも考えられる。(事務局)

○団地の中にはシェアオフィスやテレワークステーションなどを作ることも考えられる。(事務局)

○鹿島台団地のように景観の特徴のある団地があることは良いことである。

○百草団地は、更新したいという地元の声もあるが、URは基本的には現状維持の方針。(事務局)

⇒ここ2年で無印良品とコラボレーションしてリノベーションを行っている。(事務局)

⇒賃料が安いこともあり、若い人も住んでいる。

⇒一団地認定がかかっているため、今後の土地利用のネックになる。(事務局)

⇒多摩市側では、10年程前に「多摩市側から旧竜ヶ峰小学校を活用したいため一団地認定を外したい」という話があったが、日野市側で条件が整わず、結果的に帝京大小学校になった。一低層のエリアに5階建ての建物が建った。一団地認定を外すと既存不適格になってしまう点が、整理がうまくできない要因であった。(事務局)

○高幡台団地は、地区計画の意向確認と、一団地認定を外せるかどうかのポイントである。一団地認定はガイドラインが発表された。(事務局)

⇒一団地認定もいろんな段階で外せるようになる。

○バラバラな土地利用になってしまうため、括れると良いのではないか。

○エリアの中心核をどこに配置するかを議論しなければならない。診療所は無くなってしまった。ヤマザキストアはある。(事務局)

○七生中地域の生活拠点は南平しかないため、具体的なイメージを持つ必要がある。(事務局)

○程久保から南平に行くバスルートを拡充できると良いのでは。

⇒各住宅地の住民がどこへ行きたいのか、トリップを分析する必要がある。路線を必要な場所に整備するための調査は実施している。(事務局)

○程久保駅が利用されていない理由を追及する必要がある。

⇒地形的な問題で、利用しやすい方としづらい方がいる。また、もしかすると駅が認識されていない可能性もある。(事務局)

⇒京王線があることも一因である。(事務局)

- ⇒特急停車駅以外の停車駅にバスを通してほしいという意見があるが、特急停車駅以外はあまり使われていない印象である。(事務局)
- ⇒バスのアクセスポイントがないため使われないという可能性もある。(事務局)
- ⇒新たな拠点をつくっても、それぞれをつなぐことが大変であるため、今の駅を上手く使ってもらい必要がある。1日に300～400人しか利用していないが、中央大学・明星大学駅と駅のグレードはほぼ同じである。
- 山の南側に大学が複数立地しているため、連携できるのではないかと。多摩テック跡地を大学と絡めて開発するなど。東京薬科大学は、平山城址公園駅が最寄駅であるが、やや不便なため、その辺りも含めて検討してはどうか。
- ⇒東京薬科大学の学生は、豊田駅からのスクールバス、もしくは平山城址公園駅と京王堀之内駅を結ぶバス路線を利用しており、中央大学、明星大学は多摩モノレール、帝京大学は桜ヶ岡公園と高幡不動駅を結ぶバスを利用している。連携はしていない状況である。(事務局)
- ⇒それらを一まとめにして、多摩テックの辺りからバスが行き来するようにして、多摩動物公園とつなぐと便利になるのでは。
- ⇒明星大学と程久保の地域はすでに連携している。
- ⇒ネットワーク性を市でも後押ししていく必要がある。(事務局)
- 落川交流センターと新井の農地の一体的な保全と連携を検討してほしい。日野高校との間にふれあい橋のような橋を一本通すとよいと考えている。
- ⇒多摩川沿いも自然豊かであるため、こちら側も保全してほしい。
- 百草園駅の周辺はあまり開発が進んでない。
- ⇒一番のネックはおそらく敷地の狭さである。駅前にスーパーを誘致したが、それより大きな施設はない。沿道ではあるが、川崎街道沿道に広い敷地があり立地が進んでいる。沿道型の拠点も考えられる。自動車教習所は残る予定。(事務局)
- 倉沢の自然をもっと積極的に保全する方策があるのではないかと。
- ⇒部分的に都市計画緑地にする予定である。東京電力の研修所がある部分は、存続する限りは緑がつづく。東京電力が撤退する場合には、強く保全の働きかけをしていく。それ以外のところは新たに位置づけていく必要がある。(事務局)
- ⇒第二種中高層住居専用であるため、売れる土地ではある。聖蹟桜ヶ丘から25分、百草園から20分程度。(事務局)
- 立地適正化計画で、丘陵部の居住誘導区域をどうするかを検討していかなければならない。市街地を10年前と同じように継続していくためにはそれなりの公共施設を維持していく必要がある。
- ⇒災害危険性以外で居住誘導区域から除く場合は相当の根拠が必要である。
- ⇒都市機能誘導は、3駅周辺＋独立したエリアも検討中。(事務局)
- ⇒七生公会堂の辺りをもう少し拠点として整備してはどうか。
- ⇒公共施設の再編のモデルとして考えられるかもしれない。(事務局)